

## 29-0855 W44-4

チーム医療における薬剤師の役割（X I）～癌化学療法レジメンオーダーシステムの構築～

○名徳 倫明<sup>1</sup>，田井 ひろ子<sup>1</sup>，下村 一徳<sup>1</sup>，陶山 忠士<sup>1</sup>，川口 進一<sup>1</sup>（<sup>1</sup>市立池田病院薬）

【目的】注射剤に関する医療事故が多く発生しているが、その中には抗悪性腫瘍剤によるものが多くみられる。そこで当院では2001年4月より入院患者の抗悪性腫瘍剤に関して、医師よりレジメンを提出しそれをもとに混合調製をおこなう業務を開始した。さらに、2005年1月より外来化学療法室を開設し、オーダーエントリスシステムを利用した癌化学療法レジメンオーダーシステムを（株）日立造船、（株）トーショーと共同で構築し運用を開始する。今回はこのシステムについて報告する。

【方法】医師は予め登録されたレジメンよりオーダーを予約する。登録されていないレジメンに関しては薬剤部にてレジメンの内容を確認後登録する。処方当日は、投与量等、種々の条件により変更・中止することがあるが、変更・中止時にはその理由を逐次選択入力する。これらのデータは全てレジメン計画書および処方せんとして薬剤部へ出力される。薬剤部はこれらの内容を確認後、混合調製をおこなう。また、投与後の副作用に関しても、データを収集し、今後の資料として集計できるシステムとした。

【結果および考察】従来の医師によるレジメン提出方法は、提出の徹底が難しく、医師への提出の催促や薬剤師によるカルテ等の確認が必要であった。しかし、癌化学療法レジメンオーダーシステムを構築することで、より詳細な情報を手間なく管理し、医療過誤を未然に防止することが可能となった。今後は、入院患者でのレジメン管理の利用や、抗悪性腫瘍剤のオーダーミス防止を目的で、このシステム以外での抗悪性腫瘍剤のオーダーを不可能とする予定である。